

温古知新②③ 南総里見八犬伝 4 1  
笑顔礼讃西東

狩柏俳句会 (千葉県・柏市) 2 3

65周年柳都全国川柳大会開催 4

祝・10周年特別企画③ 5

投稿作品 6 10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(涼を得る飲み物、食べ物は?) 11 13

新潟ぶらり／シネ・ウインド 13

お客様の「リレーエッセイ」 南暁様 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」歌人北山あさひ様 16

8

August  
Vol.69

\*  
「喜怒哀楽」は、  
文芸を楽しむ方々の  
活力の源を目指し  
(株)ミューズ・コーポレーション  
喜怒哀楽書房が  
隔月発行している  
情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン  
詩歌俳柳壇 ニュース

喜怒哀楽

温古知新②③

## 「南総里見八犬伝」4

行方不明になってしまった親兵衛。そして、大塚へ犬士の一人、犬川莊介を探しに行く信乃・現八・小文吾でしたが……。

信乃、現八、小文吾の三人が大塚の手前まで来たところ、信乃の顔見知りの船頭・やす平に犬川莊助の危機を知らされます。

やす平によると、浜路がいなくなった事実を隠しきれなくなった大塚の村長夫婦は、詫びの印として村雨丸を差し出しました。ところがこれが真つ赤な偽物。激怒した陣代は村長夫婦を斬り殺してしまいます。ちょうどそこへ戻ってきた莊助は主の仇として陣代を討ちました。しかし、かえって村長殺し及び陣代殺しの罪で捕まってしまい、処刑を待つばかりだということです。

このことを聞いた信乃たちは、情報を集めて莊助を救うことを計画。そして処刑の日。信乃、現八、小文吾の三人は刑場に斬り込み、莊助を救出します。

追手から逃げる四犬士。しかし、眼前には川が立ちふさがり舟もありません。ちょうどその時、やす平が現れ対岸まで渡してくれました。やす平は、信乃に上野国荒芽山の麓にいる音音

に宛てた手紙を託します。

上野国。妙義神社で休む四犬士でしたが、莊助が道節の姿を発見。

一方の道節は、仇の扇谷定正が近くの白井城に在城していると聞き、機会を窺っていました。鷹狩り帰りの定正の一行に名を偽って近寄る道節。天下の名刀村雨丸を売りたいというその浪人と会見した定正は、一瞬の隙に道節に首をはねられてしまいます。しかし、定正は影武者。定正が白井城にいるという噂そのものが、豊島の残党の動きを警戒した定正の忠臣・巨田助友の仕組んだ罠だったのです。

血路を開いて何とか逃げる道節。ちょうどそこへやってきた信乃たち四犬士は道節の仲間と疑われ戦うことに。

一時はばらばらになってしまった犬士たちですが、全員荒芽山の音音のもとにたどりつきました。実は音音は犬山家に仕える者で、手紙を託したやす平は実は音音の夫・姨雪世四郎だったのです。珠の因縁を知った道節は村雨丸を信乃に返し、邪法である火遁の術を捨て、犬士の仲間に入ります。

そこへ、巨田助友の探索の手が迫ります。五犬士は必死で戦って逃げのびますが、全員ばらばらになってしまったのです。

莊介、道節の再登場、そして五犬士の集結。そして、離散。果たして、信乃たちは無事再会できるのでしょうか？  
(古川久美子)

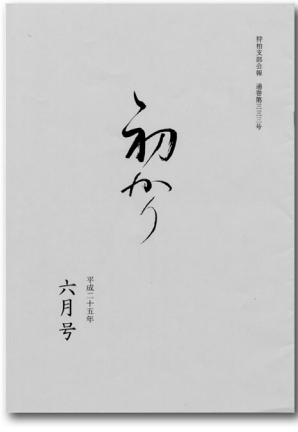
# 狩柏俳句会

指導 大野崇文様

(千葉県 柏市)

暑くも寒くもない風が心地いい6月1日(土)、柏駅東口からほど近い「アミュゼ柏」において行われた狩柏俳句会にお邪魔しました。「狩」は現(社)俳人協会会長、鷹羽狩行氏が主宰を務める一大結社。各地に支部を持ち、ここ柏俳句会は同人の大野崇文さんが指導にあたっています。

会場に入ると以前、合同句集「初かり」をお手伝いさせていただいた際、原稿をやりとりした本田よしをさんもらして、お電話同様の柔和なご対応と笑顔に一安心。本日は残念ながら2人欠席の12名の参加。兼題「風薫る」を含む5句提出。5句選のうち特選として選んだ1句を各人が講評し、大野さんが一句ずつ解説を付します。



▶毎月発行の狩柏支部会報  
6月号で通巻第333号

※以下、「入選」は大野さん選  
風薫る十秒切るや十七歳

最近、百メートル走で10秒を切った高校生のことですね。ただ、三段切れになつてしまうので、もつたないと思いましたが惹かれました

大野：三段切れは解消したいところで。上5を「薫風や」と強く切つて、中7下5を「十秒をきる十七歳」として、二物を衝突させる句としたいですね。

大見得を切つたるごとく鉄線花  
きつぱりと咲いている鉄線の花が、大見得と合っています。

大野：「大見得を切つたるごとく」のイメージだと向日葵など大きめの花のよりに思えるので、「鉄線花」はどうか？ 季語が動くのではないかとということ。一読したとき、水に沈めた人形がさつと浮いて来る「浮いて来い」という季語が頭をよぎつたので、一案としては「大見得をきつたるごとく浮いてくる」。参考になればうれいします。

風薫る飛んでゆく種落ちる種  
大野：このままでも十分良いのですが、「風」に飛んで、落ちるというイメージが出ない句にしたい。例えば「聖五月」とか。種の再生を思わせられると思うからです。

薫風や嬰に病む人に窓開く  
大野：嬰を「こ」と読むのは無理のようです。「やや」は大丈夫のようですが、中8になつてしまう。定型を守りたいので「病む人に窓開け風薫る」とするの一案です。私としては、例えば「薫風や嬰の目覚めの窓ひらく」とか、薫風と嬰兒の句にしたいところで



▲大野さんは茨城句会の指導にもあたっている

海芋咲く水のほとりのレストラン《入選》  
大野：海芋の花、カラーですね。白花と水、やさしい調べからも涼しげなレストランが見えてくる、涼感豊かな作品です。

若楓葉裏に日の斑をどりけり  
葉裏の日の斑が風におどっている、という細かい観察力に惹かれました。私も「若楓」の句を作ったがこんなふうにならなくてすばらしいな、と。

大野：中7下5を「葉裏に日の斑をどらせて」と、若楓が躍らせているように詠つてほしいかな。

薫風の山に濃淡ありにけり《入選》  
大野：山の濃淡から、薫風にも濃いもの、淡いものがあるのだからうな、と思わせてくれるところがいいですね。

筆跡の癖は人柄釣忍  
大野：欠点のイメージが強く出てしまいう「癖」は、この句には合いません。俳句は素直に詠めばいいので「筆跡のやうな人柄釣忍」と、やさしく詠えばいいのです。涼しい「釣忍」と響き合い、やさしい人が思い浮かべられるように思います。

風薫るグラウンドに舞ふチアガール  
大野：グラウンドに舞ふチアガール、

《入選》

いいですね。それだけでいたいたいちゃい  
ました(笑)。季語もいいです。

法被着てきりきりしやんと祭髪《入選》

大野：「きりきりしやん」という言葉  
を一度使ってみたかったのですが、先に  
句にされてしまいました(笑)。江戸っ  
子の祭大好きお嬢さんなのですね。

梧桐や傷つきやすき少年期《入選》

大野：剛直を思わせる「梧桐」の斡旋  
が見事です。その対比で「傷つきやす  
き少年期」の少年のナイーブさ、哀し  
さなどが描かれました。

辛口の男の意気や凌霄花

大野：「辛口の男の意気」を描くのに  
なんで「凌霄花」？ 少し違和感があり  
ます。例えば、すつきりと立つ紫の「花  
菖蒲」等にしたところですが、どう  
でしょう。

瘦せ馬車の喇叭トテトテ風薫る

大野：採りたかつたのですが「瘦せ馬  
車」で採れなかった。本当は何馬車と  
いうの？ 「トテ馬車」というのですか。  
それならば上5は「トテ馬車」とした  
いですね。中7の「喇叭トテトテ」の擬  
音と軽快な調べになり面白いのでは？  
かの家に牡丹咲くころ便り書く

よく存じ上げている方に便りを書い  
たのでしよう。牡丹の咲くころの雰  
囲気がよく出ています。

大野：全部言つてしまわないで「かの家  
に牡丹咲くころだねえ、便りでも書い  
うかなあ」くらいで止めて余韻を持た  
せたいところ。また、もつと省略でき  
ます。一案としては「かの家に白き牡  
丹の咲くころか」とか。俳句は、より  
単純化していくと鮮明で力強い句にな  
るようです。



▲毎月例会と吟行会が行われている狩柏俳句会

薫風や岬めざしてツーリング 《入選》

本当に気持ちのいいこの時季の情景がでていて、とても爽やかな印象を持ちました。

大野：「薫風や」がよく働いています。緑一色の岬を指し、風を切って走る爽快さが「薫風」によって倍加されているですね。初夏の季節感があふれています。

神童も二十歳過ぎたりビール酌む 《入選》

大野：おもしろい。ただの人になっちゃって、ビールを酌んでいるんですね。でも、神童と言われなくて、ほっとしているのかも…。俳諧味ありますね。

◎大野選 特選3句

風薫る論語一章詰じたり

茂

大野：下5を6音の字余りにして、調べを強めたところが眼目で良かったですね。論語を一章詰んじることがで

きた喜びが、その調べに託されたから、下5を定型の「詰じて」としていたら、効果半減だったでしょう。

薫風や水田に雲の走るころ

隆子

大野：「風薫る」というやさしい調べの季語でなく、「薫風や」という漢語調の季語で一句を引き締めたから「水田に雲の走るころ」と響き合って、風の動きや爽快感が出たのですね。

杉の根を踏み分けゆくや登山馬しのぶ

登山馬に乗ったことはありませんが、山道の走り根のところを上手く登っていくようです。少し哀れな感じがしていいなと思いました。

大野：中7の「踏み分けゆくや」の表現が良かったです。山深いなかの走り根を探りつつ、踏み登っていく登山馬の過酷な状況が描かれました。

ひととおりの句をあたる、「何か質問はありますか？」ということで、質問コーナーの時間に。

Q、講評で「季語を変えた方がいい」とご指摘いただく場合があります。その際、兼題で作ったのに…と思うのですが、どう考えたらいいのでしょうか。

A、大野：「季語を変えた方がいい」というときは、その句に季語が適していないか、季語の持つ力が十全に働いていないと思われるからです。狩行先生の代表句の一つ

天瓜粉しんじつ吾子は無一物

と、不採用になった

復活祭しんじつ吾子は無一物

の句を並べてみれば「しんじつ吾子は無一物」の感動、把握が生きるための

季語の適不適や季語の持つ力の働きやうが一目瞭然にわかると思えます。少しでも、原句に適した季語を見つけて戴きたいと思う時に「季語を変えた方がいい」と申し上げています。

兼題で作った句であっても、同じだと考えていただけるとうれしいです。ただ、作者がそのままがいいと思われるならば、変える必要はないと思います。

Q、兼題がなかなか作れないのですが、どうしたらいいのでしょうか？

A、大野：吟行に行き、季語を五感で感じ取ることが第一ですが、季語を知るために歳時記を丁寧に読むこと、そして句を沢山作ることをお勧めします。



私は、時間的に吟行に行けないので歳時記をじっくりと読みます。同じページをイメージがまとまるまで2時間見ていたこともありますね。例句から情景を探り、少なくとも15句くらい作りませんが、7句目くらいから何かが出てきて、10句目あたりから「私」の考えている句になるようです。句は沢山作ってください。必ず自分のためになりますから。

Q、「かの家に牡丹咲くころ便り書く」

↓「かの家に白き牡丹の咲くころか」このようになおして戴き、自分が作ったとは思えないほど叙情的な素敵な句になりうれしいです。

A、大野：原句に作者の思いがあるから、その核を見つめて引き出せば、その句に適した言葉がでてきて一句が生まれるのです。直せる句というのは、詩情がある句ということです。

Q、先ほどの「論語」の句では「詰んじたり」の字あまりが逆がいい、というお話でしたが、これだけはしてはいけないという原則はありますか？

A、大野：俳句は定型詩ですから、季語と5・7・5の調べを大事にすることだと思っています。5・8・5にならないように、句またがりにしてでも中7の字余りだけは避けようと思っています。

★これでもいいけど、こうすると更におもしろい：等、それぞれの作品を尊重しつつ常に代案を提示する大野さん。実は、新橋に知る人ぞ知る和食のお店を持ち、毎晩板前さんとして腕をふるっている。お送りくださるハガキは、達筆の俳句がさらさらとしたためられていたり、切り絵までほどこされていたり、唯一無二の代物。俳句にしろ、料理にしろ、一つひとつに誠心誠意心を込めて、素材を活かし、より味わい深くすることのプロなのだ。句会が終わっての酒席では、相好を崩しての俳句談義（写真なく残念！）。つい長居をして電車時間ギリギリに。皆さんが、集って学びたい理由がよくわかる。

(木戸敦子)

# 65周年 柳都川柳大会開催 柳都川柳社

主宰 大野風柳様

去る7月7日、新潟グラントホテルにおいて「65周年柳都川柳大会」が開催されました。受付開始前から、あちらこちらで旧交を温める姿が見受けられ、全国各地からの参加者は200余名、22の円卓はびっしりうまつていました。



▲完成した3作品のうちの一つ

して川柳に詠み込みます。

続いては一般社団法人全日本川柳協会理事長であり「柳都川柳社」主宰大野風柳さんによる「川柳ひとり語り」。85年の歳月を幼少期から振り返り、7人兄弟の末っ子で看板を書いておられたお父様とバケツを持って各土地を回ったこと、そのことで、書き続けている現在を「親爺にもらった宝物」と感謝。また、何よりも嫌いだつた綴り方の時間に、先生は何も書かせず世界名作童話を読んでくれ「そ

のおかげで好きになり、教えるということは本人が興味を持たなければダメ」との教訓を得たと話されていました。「夕刊新潟」で入選したことをきっかけに、とんとん拍子で昭和24年に「柳都」を創刊。選句の怖さもわからず「私が選をやります」と言った手前、自分の句を作るより選句に夢中になり「そのおかげで判断力がついた」と述べられ、「川柳は人間を変えてくれるが、そのベースには多大な影響を受けた白石朝太郎がいる」と感慨深く話されていました。

最後は、今の川柳界の問題の一つとして、北は北、南は南その土地の川柳があるのに、選者が同じような句を選ぶために似たような川柳がいいとされてしまふ、と交流のチャンスである全国大会の弊害も訴えておられました。続いて、主宰の一回り上という本日本参加の最高齢者、97歳の皆川綾子さんに主宰より花束贈呈。会場から温かく大きな拍手が送られていました。

祝辞として、全日本川柳協会副理事長 長久保田半蔵門さん、川柳への応援歌として、文芸評論家の若月忠信さんのご挨拶に続き、第39回白石朝太郎賞、第10回大野風柳賞の表彰式へ。



▲機敏な動きでとても85歳は思えない大野主宰

その後、NHK大阪放送局「テレビdeばやし川柳」に出演されている大西泰生さんより、メッセージ「川柳のあした」と題するご講演をいただきました。「川柳は待ちの文芸。何を待つか。それは歳をとり経験を積むのを待つ。歳を重ねるほど才能を蓄積している。

「賀状こぬやつ死んだかもしれない」こんな句は歳を重ねないと作れない。百歳を超えると枯れ木が土にかえるような清々しさすらある。もう80歳だから…そんなことは絶対にならない。90歳になつてからどんどんうまくなる方をたくさん見ている。いくつになつても花は開く。写真がしっかりとしていると省く線がわかり抽象が描ける。言葉も同じで、基礎を一生懸命やると、言い回しや省ける言葉がわかり、何を書いて何を残すのかが見えてくる。そういう意味で、楽しいプラス基礎も大切。大野主宰も言っていたが、川柳は人間を変える。こうして皆さんにお会いできるのも、川柳の神様がひびつてくれたおかげと感じている」。

各選者の特選の作品より

- ◎「印象吟」滋賀 徳永政二選
- ◎「破と書いた鬼の形相だつた」小島蘭幸
- ◎「印象吟」広島 小島蘭幸選
- ◎「宿題」岡山 大家風太選
- ◎「宿題」軽井沢 坂井冬子
- ◎「宿題」東京 やすみりえ選
- ◎「宿題」波」福岡 梅崎流青選
- ゆつくりとコップの水が波を打つ

藤塚貴映子

- ◎「宿題」味」仙台 栗石隆子選
- さようなら水ようかんのような人 徳永政二
- ◎「宿題」道」岩手 吉田成一選
- まつすぐな道のさびしい人ばかり 熊谷岳朗

◎特別宿題「雑詠」大野風柳選

何かが変わる桜はとうに散つたけど 川合笑迷

無難かな住めば都と答えます 原とき

ロボットは多分この句が判らない 小越龍之助



テレビでもおなじみ やすみりえさん



★会場のお一人おひとりの表情が実に明るく、ここに来ることを心待ちにしていたことが見てとれる。偶然ではない出会いの集積に導かれ、今ここに集結している同志の面々。大西さんの「おじいちゃん、おばあちゃんとは決して言えない。80歳の男性であり、90歳の女性だということ、川柳を通してわかつた」の言葉通り、各々の個性を發揮し触発しあう、若い精神の祭典だつた。(木戸敦子)

喜怒哀楽書房が

今年の10月で

10周年を迎える

ことを記念し、

特集ページをスタート！

3回目は木戸敦子に

お客さまとの思い出を

インタビューしました。



▶設立当初より、当社を応援して下さったお客さまとの一枚。2009年イベントの際には、はるばる新潟までお越しくださいました。いまも、あちらの岸より見守っていてくださる気がします。

◎様々のお客さまとの出会いがあったと思います

—そうですね。かくありたし、と思う方が大勢いらして何からお話しすればいいのか迷いますが、お客さまからは生き様を学ぶことが多いです。

大変にお忙しい方なのにメールを送っても、すぐに返事をくださったり、何かをお訊きすると、それを他の方に聞いて、またすぐにお返事をくださったりと、そのスピード感に驚かされる方がいらつしました。世のため、人のために動く、ということが身についているのだと思います。

同様に、自らデイサービスに通いながら、そこで通所者に川柳を教え喜ばれている方もいらつします。いくつになっても自分にできることで、人のお役に立ちたいという心持ち、見習わなければと思うことが始終です。

◎歳を重ねると生老病死がつきものです—会社ができて程なく、句集のお手伝いをさせていただいたお客さまは、お会いした当時は奥さまを亡くされ、その後は義母を介護し看取り、娘さんの開いた店と一緒に手伝い、でもその娘さんも亡くされ…。時々メールのやりとりをしていますが、その文面、山野草の写真等、ご苦労をされた方の言葉とまなざしは大変に優しいものです。

俳句雑誌、句集等、多くの本を出版された俳句結社の主宰は「肝臓がん、前立腺がん、食道がん、胃がん、何でも経験済みだから、ちよつとのことでは驚かない。戦争中の苦勞が闘病の糧。だからこそ健康のありがたさを感じながら、皆さんと仲良く、楽しく元気で俳句を作れることが何よりの喜び」とおっしゃっていました。先日亡くなられましたが、その柔和な笑顔は忘れられません。

また、絶えず向上をめざし、「死ぬまで自分らしく、人のためになるよう

な生き方をしたい。俳句に関しては趣味だからこの程度でいい、では進歩は望めない。心の師となると、心を師とせざれ」と、話されたお客さまの言葉も印象に残っています。

◎高齢でもみなさん元気で

—95歳当時、一緒に散歩をした埼玉のお客さま。あれから8年、先日おハガキをいただきましたが、今は103歳のはず。当時、夏は2時50分に起床、乾布摩擦後に1時間15分4キロを歩くのが72歳以来の日課。「軍隊で鍛えられているからね。病気なしで、日曜・祭日も休んだことがない。何でも一生懸命、何を食べてもうまい、ほんやりしたことがない。百歳まで生きると決めたら、百歳まで生き方をしないと。健康第一で、人様に迷惑をかけない、人様の喜ぶことを楽しみとする、敵を作らない、約束は必ず実行、ウソは言わない、信じたらとことんやりぬく」をモットーにしているというこの方は、有言実行、百歳の目標を超えました。

93歳の新潟のお客さまは「早寝早起き？ そんなことをしていたら書きたいこと、したいことを忘れちゃう」と、規則正しくない生活でも元気がいい。書くことが思いつけば夜中でもパソコンに向かい、頭の回転が止まるまで離れないのだとか。「四季の美しい日本に生まれ、お互い助けあい慰めあってそれぞれのできる仕事を果たしていく。これが人生、人の道です。一日を大切に、今日の日が最高のよい日であるように生きていきます」。お電話口のお声はいつも日本晴れ、天晴れです。

◎忘れられない体験と言えは…

—8年前、喜怒哀楽の取材でお話をお聞きした3時間後に、書店内で倒れて亡くなられたお客さまです。皇居が見渡せる、パレスホテルの最上階で、簡単なおつまみとカクテルを飲みながら、15歳から働いてきたこと、美術・音楽・文芸：蔵書が一万冊を超えるということ等、遠くに視線を馳せながら来し方を話してくださいました。お電話での最初の第一声が「葬式で配るような箱入りの分厚い饅頭本にはしたくないんだよね」。葬儀の際、棺のお顔の脇にはモダンなデザイナーのこの句集が。あの時に取材の申し込みをしなれば、このようなことにならなかったのでは…という後悔と、一人になられた奥さまへの申し訳ないという気持ち。句集の最後は「手のひらに黒き葡萄の」で終わっています。下5に入れるべき言葉は何なのか、以来、一期一会の言葉をより深く心に刻み、お客さまにお会いしています。

8月はお盆ということもあり、多くの鬼籍に入られたお客さまを偲びました。もうお会いすることも声を聞くこともできませんが、その方の作品としての本が残っています。歳を重ねるとともに、思うようにいかないことも増えてくるのですが、それでもご自身の命をいっばいに咲かせるべく、心を元気に明るく保っているお客さまに、生きる勇気をいただいています。私たちも人として、会社として、誰かの勇気と元気の源である、そんな存在になりたいものです。

(インタビュー：菅真理子)

# 投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめきり2013年9月13日(金)まで  
※作品は原稿どおりに掲載しております。

## 俳句

- 1 豚汁と苳肴に老人会 大橋恒次(新潟県)
- 2 体操の十人のひとみに朝の虹 河野静子(埼玉県)
- 3 巢作りに励む燕の陸まじや 渡辺由美子(宮城県)
- 4 二葉葵神と仏の御座す堂 二瓶邦枝(埼玉県)
- 5 夏の蝶瑠璃いろ流し去りにけり 塚田寿子(埼玉県)
- 6 空襲をぼつぼつ語る夏帽子 佐藤信(神奈川県)
- 7 払暁に夢かうつゝか時鳥 山本勝美(滋賀県)
- 8 梅雨晴間未だ墓石の重からむ 西野寛(三重県)
- 9 夕間暮れ母の化身か揚羽蝶 松田重信(埼玉県)
- 10 茄子の籠抱えて妻はいそいそと 星野三興(新潟県)
- 11 風通る湯のほとりのねぶの花 竹本美美子(新潟県)
- 12 夏大根こまなく坐せる無人店 千代田俳徒(東京都)
- 13 鑿一魄仏の生るる鑑真忌 浅田季祐(埼玉県)
- 14 バス停の日傘の女の遠ざかる 山本紀昭(埼玉県)
- 15 山清水くみて青嶺の近きかな 中島光江(埼玉県)
- 16 アバウトな余生戒む太宰の忌 大谷茂(埼玉県)
- 17 いただきし千年日記つけはじむ 須田洋子(埼玉県)
- 18 花咲きて花冷えもあり明日の道 木村鮎(山形県)
- 19 夏蝶の花と化したる刻に翔ち 中條弘道(東京都)
- 20 やわらかに空気動く芥子の花 吉村充治(埼玉県)
- 21 ちちははの墓信州に青胡桃 服部八重子(東京都)
- 22 縛れてもほどく風あり夏柳 堅田秀子(東京都)
- 23 洗濯物乾きのあまく梅雨近し 小形さだ(東京都)
- 24 これからの生き方想ふ梅雨最中 井原毬子(東京都)
- 25 かび臭き納戸に鳴かぬ鳩時計 環順子(東京都)
- 26 地球儀を傾げ卯波を立たせけり 川口襄(埼玉県)
- 27 旗振つて学童渡す暑さかな 竹内ハヤ子(埼玉県)
- 28 大手毯窓辺に咲いて風の音 須澤重雄(長野県)
- 29 万寿菊枯れて葬列向きの無し 小井寒九郎(三重県)
- 30 釣堀に人來ぬひと日鯉如何に 石崎ひろ美(神奈川県)
- 31 泉湧く漣に夢ひかりけり 安部龍太(山梨県)
- 32 三行の父の手紙や鉄線花 長峰正晴(千葉県)
- 33 部屋干しの乾き具合や梅雨じめり 三津木俊幸(千葉県)
- 34 麦の秋母が手を振る日暮径 高松ゆか(神奈川県)
- 35 まいまいの池に松ぼっくり爆弾 井上静夫(栃木県)
- 36 立葵一花つつの悔い残こす 早乙女文子(埼玉県)
- 37 ややありて煎じ薬の香夕薄暑 古谷力(東京都)
- 38 マロニエの花の簪花魁めく 居原田連星(大阪府)
- 39 木下闇変哲先生御來場 安木沢修風(新潟県)
- 40 兵器廠の崩れし塀や黒揚羽 関原幸子(東京都)
- 41 汗拭ひ今日も張込み一昼夜 福山三智子(東京都)
- 42 横丁に迷い日傘を廻しおり 大塚徳子(埼玉県)
- 43 忠魂碑青葉若葉の丘にかな 大場きよし(宮城県)
- 44 田水張る好きな方へと水走る 湯浅芳郎(岡山県)
- 45 冷奴箸先すでに千鳥足 林 克(福島県)
- 46 南国の椰子の葉音や水すまし 橋本良子(埼玉県)
- 47 父の日に父から父へ送り物 早矢仕邦夫(愛知県)
- 48 十葉の照す梅雨空暗き路 青木日出男(群馬県)
- 49 新茶汲む夫との月日眼裏に 堀木和子(大阪府)
- 50 父の日のやもめ暮しの一人酒 山崎吉晴(群馬県)
- 51 鳥交る好きも嫌ひも女偏 鈴木智子(千葉県)
- 52 どん底や土管暮しの夜寒風 加印章勝(千葉県)
- 53 太鼓打ち田畑を覚ます春祭 中村慶子(滋賀県)
- 54 憂きことのしばし遠のく月下美人 鷺谷浅子(茨城県)
- 55 どくだみを敵のやうに取りゐたる 清水勝子(神奈川県)
- 56 山里の匂ひたじろぐ栗の花 杉原明子(静岡県)
- 57 字余りの人生もあり立葵 大西誠一(岐阜県)
- 58 竜天に登る一度は見たきもの 鈴木蝶次(宮城県)
- 59 捨てて捨てて転居終りぬ缶ビール 小室誠(東京都)
- 60 蓴菜や五臓六腑の生き返る 土谷敏雄(秋田県)
- 61 代は飛鳥鍵てふロマン梅雨入りぬ 矢野絹枝(東京都)
- 62 文豪の辿りし古道青芒 田中昶(鳥取県)
- 63 若葉雨花の葉つばが踊りけり 河合ヤスエ(大阪府)
- 64 遠き日の俳縁ふたたび夏館 有坂馨園(福島県)
- 65 北国讚歌春蟬ホロロ口鳴いて 有田裕子(北海道)
- 66 草いきれ島の媼に追ひ着けず 小林七重(新潟県)
- 67 散らばりて打ち上げ花火星模様 山本理香(大阪府)
- 68 夏つばめ福岡城に天守なく 川崎洋吉(福岡県)
- 69 何気なく天を仰げば桜ん坊 炭崎博(滋賀県)

- 70 旅の宿小さき幸せ枇杷甘し  
佐瀬千恵(神奈川県)
- 71 梅雨晴間寡婦には言えぬ話など  
宇田川正雄(埼玉県)
- 72 生あらば浮きつ沈みつ七変化  
神作洸江(埼玉県)
- 73 独り居の笑顔ひととき梅雨晴間  
大内泰子(東京都)
- 74 薔薇の門疲れを見せぬエリザベス  
武市愛子(大阪府)
- 75 千枚田千の人居て田草取  
山本直子(大阪府)
- 76 夏きざす笙清浄と巫女の舞  
佐野和彦(静岡県)
- 77 羅やいよよ妣似の姉と云ふ  
紺谷睡花(東京都)
- 78 リウキンカ色の出るまで描き続く  
小山たけし(埼玉県)
- 79 悪党芭蕉悪人虚子か霧の中  
阿部至(埼玉県)
- 80 流れ星被災地如何にふと思ひ  
原田かず多(千葉県)
- 81 昼顔や要塞の跡朽ち果てし  
高杉杜詩花(北海道)
- 82 藤棚や名代味噌屋の若女将  
長谷川ただし(東京都)
- 83 夏安居や白きみちなり法隆寺  
石尾曠師朗(東京都)
- 84 楮の実食むやぬるりと喉かな  
星一子(神奈川県)
- 85 カエル像にこられるほたるぶくろかな  
安部哲(新潟県)
- 86 梅雨の中泰山木が光っている  
島口健次(神奈川県)
- 87 若竹のさやくにはまだ音のはず  
原田麦吹(埼玉県)
- 88 肩の荷を解く余生にカーネーション  
野村牟人(東京都)
- 89 梅雨籠り心置きなく書に浸る  
岡村君枝(茨城県)
- 90 夏帽の写し絵の妻夏若し  
津田忠彦(岡山県)
- 91 慕知るやりストラテてふ重さ  
岩村昇(神奈川県)
- 92 夕暮れて一汁三菜豆の飯  
檜山とり子(東京都)
- 93 夏帽子ローカル線に揺られをり  
吉田律子(新潟県)
- 94 二度三度叩いて西瓜買う娘あり  
内河邦久(東京都)
- 95 オスプレイ雲雀は空へ帰れない  
白岩賢次(福島県)
- 96 喧騒に黙の空間男梅雨  
村上克哉(東京都)
- 97 指十本それぞれ祭り待っている  
白井みはと(東京都)
- 98 晩年の耳の果報か亀鳴けり  
田島星景子(宮城県)
- 99 風薫る赤い帽子青い帽子園の庭  
副島加代子(宮城県)
- 100 息災を祈つて茅の輪くぐりぬけ  
水落重式(新潟県)
- 101 夏富士の瞬の残像超特急  
渡邊碧海(静岡県)
- 102 特攻の恩師へ墓参夜の秋  
田野倉訓郎(東京都)
- 103 はらからを偲びて仰ぐ盆の月  
鮫島茂利(兵庫県)
- 104 庭に舞ふ夫の化身か黒揚羽  
清まさこ(静岡県)
- 105 梅雨晴れ間たこ焼きの店のれん出す  
布目雅之(東京都)
- 106 老いばれのしぶとく生さる陳茶かな  
山東爺(北海道)
- 107 夏草や起こす人無き兵の墓  
佐藤千仙(新潟県)
- 108 孫抱いて夾竹桃のところまで  
津田吾燈人(高知県)
- 109 病因は加齢加齢と夏落葉  
中野豊彦(東京都)
- 110 身の丈に合ひし幸せ青簾  
大窪美代子(大阪府)
- 111 北斎の驟雨の見ゆる橋の景  
澤雅子(大阪府)
- 112 実梅選るこれは楸邨これ兜太  
椋本望生(大阪府)
- 113 かつこうの初音や妻と片こはん  
森俊彦(神奈川県)
- 114 師と望む魚沼平野虹の橋  
中西秀雄(東京都)
- 115 草刈り衆蜂除けネット目深にす  
津布久信雄(東京都)
- 116 初恋の人も来ている盆踊り  
北村純一(神奈川県)
- 117 城跡の風やり過し初蝶来  
上村元義(神奈川県)
- 118 山道を下る我が足うぐいすの声  
若月理依子(新潟県)
- 119 紫陽花の地球の色に咲きにけり  
古川正栄(千葉県)
- 120 江戸モビールゆつくり廻る夏座敷  
鈴木岑夫(千葉県)
- 121 サックスの音のさはやかにジュン・コ  
ンサート 萬濃その子(神奈川県)
- 122 指図せば水輪ひろげし青田中  
神一男(静岡県)
- 123 回るほど思ひ出募る風車  
長島保子(東京都)
- 124 紫陽花の揃うて雨を乞ふるかは  
重原昇(新潟県)
- 125 見返るや吉原大門夏柳  
松尾らん(東京都)
- 126 羨望の眼になる隣家の牡丹かな  
堀田寿美子(北海道)
- 127 紫陽花の雨に彩増す今日の色  
道給一恵(埼玉県)
- 128 紫陽花園満開園児ら大歓声  
延原令岱(岡山県)
- 129 熟れし枇杷迷う右手の届きさう  
竹澤茂子(大阪府)
- 130 万緑へ詩魂を燃やす午後の椅子  
渡辺嘉幸(東京都)
- 131 絵団扇の滴るをみる七変化  
黒岩正子(埼玉県)
- 132 弟と母語る夜の冷奴  
森川千英子(千葉県)
- 133 父の日や父の遺愛の銀煙管  
成田節子(山形県)
- 134 夏の陣月出山岳と一尺八寸山  
緑川禎男(埼玉県)
- 135 一人身の日記三文字梅雨に入り  
山本善輔(兵庫県)
- 136 守宮遇ふこのごろ世の中冷えている  
北野耕兵(千葉県)
- 137 儂しや紅沙灯台消えかかる  
西條公雄(埼玉県)
- 138 割れ壺に影にりたる夏の蝶  
小澤円梨(静岡県)
- 139 生涯に口紅一本燕来る  
倉田淑子(千葉県)
- 140 桃の香のしみたる衣服濯ぎけり  
大塚正路(福島県)
- 141 梅漬けて女は塔に登りつめる  
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 142 音に聞く衣掛柳今芽吹く  
乾久子(滋賀県)
- 143 さびしさも自由のひとつかたつむり  
近藤薫也(千葉県)
- 144 白百合や置かれたまの車椅子  
齊藤安弘(神奈川県)
- 145 家中に紫陽花活けて飽きもせず  
大阿久雅子(東京都)

# 投稿作品



- 146 ペンダント外し青紫蘇摘みに出る  
山本せつ子(鹿児島県)
- 147 叫ぶ人口閉じられず青嵐  
浦橋濁雪(兵庫県)
- 148 カラオケてふ気障を極めし桜桃忌  
長野光康(神奈川県)
- 149 梅檀の花の見守る鬼瓦  
片山茂子(埼玉県)
- 150 黒塀を衛兵のやう立葵  
石井美智子(埼玉県)
- 151 ほととぎす一羽の鴛か二三羽か  
西口東治(大阪府)
- 152 駆け足の月日の早さ蛍飛ぶ  
中田文子(大阪府)
- 153 紫陽花にひかれて店に無駄使い  
今井節子(千葉県)
- 154 豆腐屋の水の匂へる初夏の朝  
杉村美保子(岩手県)
- 155 夏めくや車窓に青き風を入れ  
秋谷静子(茨城県)
- 156 麦の穂が夕陽の中に波をうつ  
中村和弘(愛知県)
- 157 うすぐもり雨待ち顔の手毬花  
鈴木美咲子(山形県)
- 158 木立ちより雀こぼれてえさを追う  
木下精(大阪府)
- 159 閉じこめし想いふくらむつぎ花  
坂詰進(福島県)
- 160 百草丸買うて掬びぬ山清水  
大曾根育代(埼玉県)
- 161 気がつけば平和の続く終戦日  
栗原黎(群馬県)
- 162 灯を消せば玻璃に涼しき月のいろ  
青木ケン子(埼玉県)
- 163 がむしゃらに共にここまで額の花  
井田由利子(宮城県)
- 164 アマリリス妙齢と言ふ年の頃  
高崎登喜子(東京都)
- 165 水替はり余所ゆき貌の金魚かな  
今井勝子(新潟県)
- 166 そそくさと打つ掛け御飯冷奴  
油谷郷史(兵庫県)
- 167 火の如き恋猫が居てガン病棟  
辻升人(東京都)
- 168 甘言を許すな怒れ沖繩忌  
福岡悟(東京都)
- 169 あめんぼに過去なく今があるばかり  
羽根田明(神奈川県)
- 170 早乙女の一人つぎりの補植かな  
中嶋清子(佐賀県)
- 171 草原に咲きしポピーの行き過ぎる  
田中恵美子(山形県)
- 172 少年に夢を与へし雲の峰  
藤田照代(岡山県)
- 173 南国園紫陽花を見ていやされし  
岩永登茂子(大阪府)
- 174 一人では成すこと小さき青嵐  
山田幸代(兵庫県)
- 175 老ホームにバリカンの音夏兆す  
小野寺裕子(宮城県)
- 176 喜寿祝ふ孫発声のビール乾す  
寺内侘(埼玉県)
- 177 半熟の卵はわたし夏の果  
稲垣恵子(埼玉県)
- 178 ありがたや大事にしたい梅雨晴間  
阿部幸子(宮城県)
- 179 夜に入りて降り出す雨や桜桃忌  
松嶋光秋(東京都)
- 180 ホルンの音威風堂々五月晴  
中山日出子(大阪府)
- 181 待ちのぞむ雨も降らせず乾の梅雨  
鈴木みえ(長野県)
- 182 健やかに夏至を向かひし此の一步  
田野井一夫(栃木県)
- 183 張り替える障子明りに母の影  
棚橋麗未(東京都)
- 184 コンサート終え夏の園一人の歩  
山崎ゆき(東京都)
- 185 夏座敷おこづかい手に膝揃え  
大久保アヤ子(東京都)
- 186 美しくしき媪となられ夏帽子  
外賀喜咲(京都府)
- 187 潮騒を総身にまとい畑を耕つ  
金子範子(高知県)
- 188 おさげ髪玉音聞いた負戦日  
芋木匡子(滋賀県)
- 189 校舎二階の窓に伸ぶ立葵  
勝田久美(大阪府)
- 190 入梅の匂いをかけるネズミかな  
白戸麻奈(東京都)
- 191 うすき陽のやはきを宿す花菖蒲  
川嶋法子(東京都)
- 192 戴きし珈琲薫る夕薄曇  
本間七窪子(山形県)
- 193 吹く風の無しあじさいは朝に映え  
井上氣海(広島県)
- 194 老犬の梅雨の晴間の散歩かな  
松前邦廣(千葉県)
- 195 要塞のごとしレタスのみどり盛る  
池田岬(埼玉県)
- 196 梅雨晴間阿倍野のかたをみはるかす  
池本勇(奈良県)
- 197 篠笛の魂ゆるする夜半の春  
磯部力(新潟県)
- 198 蛭狩り飛び交ふ源氏平家かな  
青木凉子(埼玉県)
- 199 打上げの花火に浮かぶ彼の顔  
忍正志(兵庫県)
- 200 初茄子やだし味噌汁に活躍す  
富樫和子(山形県)
- 201 白紫陽花亡母が必ず顔見せる  
田中美智子(埼玉県)
- 202 玫瑰や東北沖の海の風  
福田和子(東京都)
- 203 草引いて家族のやうな草の名を  
下坂池峰(秋田県)
- 204 ビアンビシヤス春楡百年種子を播く  
小島岳青(新潟県)
- 205 青葉木菟夜学の灯り洩れる窓  
関忠恕(静岡県)
- 206 水すまし雲の流れの上に棲む  
十亀東美(大阪府)
- 207 ふるさとや時空をうめる一番茶  
仁藤ひろし(埼玉県)
- 208 大賀ハス古代を映す不思議花  
針生清(千葉県)
- 209 露の玉今日の命の輝やけり  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 210 眠り草ねむれねむれよ嬰よねむれ  
堀井酔人(茨城県)
- 211 櫻の実含めば鳥と話せさう  
浜田はるみ(埼玉県)
- 212 風鈴がみどりの風をひろいけり  
吉野成行(愛知県)
- 213 白木権俄に逝きし姉しのぶ  
小林紀美子(東京都)
- 214 人の世を怒り笑ふも日日草  
野中信夫(東京都)
- 215 老ふたり器はひとつ冷そうめん  
坪田勝秀(鹿児島県)
- 216 満々の大河をはさみ大青田  
菅井文男(新潟県)
- 217 乙女らの羽化せし思ひ更衣  
西川孝子(奈良県)
- 218 籠枕風をくぐらす自由人  
勢川直美(大阪府)
- 219 新涼の水に魚影の走りけり  
阿部徳夫(宮城県)
- 220 **短歌**  
ブラジルへ決めた本田の左足ザックジャ  
パンに歓喜の嵐 大竹憲弥(新潟県)



- 221 視力うすれ聴力おとろえ来たるとも  
気力だけはと声かけ合つて  
佐竹章(宮城県)
- 222 福島を棄民のあつかいしておいて総理  
笑顔で原発セールス  
黒澤正行(福島県)
- 223 君に問ふ空飛ぶ気持有るや否やわれ  
は八十六君は八十一  
百花清(埼玉県)
- 224 私は金をつくれぬ私をのこした父  
母は生命をつくつたふつうの人  
梅沢進(埼玉県)
- 225 ゆつたりと進むフェリーに寛ろげは茜  
に染まる夕風の瀬戸  
久本にい地(岡山県)
- 226 情にては喜怒哀楽のありながらなせ  
少なきか怒りの歌は  
篠原三郎(静岡県)
- 227 山くさの中に目立てる山帰来つや持つ  
丸葉にわが暫し寄る  
木暮珣子(群馬県)
- 228 あじさいの大き花毬に頬よせてかす  
かに笑みて君召されゆく  
野木宗信(奈良県)
- 229 初に見る孫の付れ合ひにこにこ近  
寄り来たりドレス(白)の裾曳く  
高須孝(愛知県)
- 230 玉藻城お濠に和船鯛を供瀬戸はつづ  
いて浦島伝説 佐伯セツ子(香川県)
- 231 紫陽花にダンスパーティという品種モ  
ダンだわ雨に抱かれてさあワルツを  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 232 毎日をぴんぴんころり目指し生くそ  
れが身の為世の為になる  
山本敏順(長野県)
- 233 日光に震度5といふ地震ありあの三  
猿は如何におはすや  
今井忠一(東京都)

- 234 返還は祈れど空しふるさとの金を納  
めて昆布穫る海 早坂紘司(北海道)
- 235 雷鳴の中を流れる川がある私の夢が  
生まれる瞬間 久保和友(滋賀県)
- 236 悠久の天のあゆみに憑かれたる雁の  
一群かがやき渡る 北岡晃(兵庫県)
- 237 人生は運命背負今今日のある如何に過  
ごさん日々(出来)と  
関子利明(兵庫県)
- 238 夕風の海に入り日のみごとさを固唾  
呑みつ目凝らしつつ  
田中豊恵(新潟県)
- 239 千人の笑いは大きな波となり小舟を  
操る南光ひとり 南順子(大阪府)
- 240 乱暴な言葉使いたい頃「そうじゃ  
ねえよ」と四歳の孫  
桑原謙一(群馬県)
- 241 前掛けの袋一枚二枚と引き出して桃  
を包めば風に揺れおり  
土屋喜雄(山梨県)
- 242 桂月の蔦温没後88年みな月のみの桂  
浜より遥拝 西山悌三郎(高知県)
- 243 初なるの桃葉がぐれに青々と高なる  
心木に寄りて立つ  
高橋邦子(高知県)
- 244 黄斑症レーザー治療に山形の大病  
院(今日も通ひぬ  
梁瀬龍夫(山形県)
- 245 遠き道歩み疲れて泣く吾に路傍の花  
を持たせし母よ 白石政江(群馬県)
- 246 摺上の瀬音にまじり細く鳴く河鹿か  
なしも目を閉じて聞く  
緑川葉子(福島県)
- 247 輝きを失せぬ瞳の魅せる女露草植え  
る手にトキメキを  
村岡盛英(群馬県)
- 248 古き友を訪ねし吉備の山峡は昨日も  
今日も卯の花時雨 神野弘(岡山県)

- 249 浜ぐるま消えて久しき小次郎の碑の  
哀れさを誰も語らず  
濱田イサオ(福岡県)
- 250 合槌を打つべき人は無けれども古来  
の教えにわれは従う  
寒川靖子(香川県)
- 251 故郷で喜寿のお祝誘われし懐かし電  
話話しはずむや  
浅沼正子(神奈川県)
- 252 揚げ足も意見の一つ大切に  
羽田桐柳(群馬県)
- 253 今年から敬老会にさそわれて  
五十嵐陸博(新潟県)
- 254 この人も独り暮らしかレジ並ぶ  
藤井北灯(福岡県)
- 255 言わなくていいこと言つて大打撃  
守屋高雄(岩手県)
- 256 孫相手連休つぶし将棋する  
工藤昌見(山形県)
- 257 逮捕寸前にツルンときぬかつぎ  
丸山芳夫(東京都)
- 258 遣伝子も時にはぶれて受け継がれ  
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 259 「自分史」送りお誉めの言葉ありが  
たし 菊地可寿子(新潟県)
- 260 喜怒哀楽10・10近し十周年  
橋本世紀男(東京都)
- 261 面接に器量で負けてわたし損  
石原岳(群馬県)
- 262 昭恵さま多勢居りますサポーター  
南喜美子(千葉県)
- 263 メガネとるスーパーマンになるために  
岡本恵(茨城県)
- 264 節電も停電よりはずつとマシ  
細川光子(栃木県)

## 川柳



- 265 名乗らずに個人情報狙う窓  
藤井碩子(山口県)
- 266 陽が昇り今日やる事があつて幸  
小山恵美子(大阪府)
- 267 お日さまの機嫌のいい日寺参り  
奥田音野(香川県)
- 268 仕方ないけれど小さくなった母  
潮田春雄(千葉県)
- 269 悪友に誘われ深酒朝帰り  
原田英一(千葉県)
- 270 声もなくただ声もなく墓洗う  
鈴木義雄(福島県)
- 271 ひさびさの珍道中に膝笑う  
楠瀬美香(高知県)
- 272 溝川のかにも縄張りあるらしい  
大江秋月(兵庫県)
- 273 極刑の主文は最後加減せず  
松尾健二(千葉県)
- 274 人知れず人が旅立つ長寿国  
藤沢健二(千葉県)
- 275 ユーモアで心開けば笑みの波  
近藤富夫(東京都)
- 276 ふり向けばふり向いていたあの人も  
山口千鶴子(東京都)
- 277 老介護言葉をいらぶ汚物替え  
諸橋文男(新潟県)
- 278 時々は出して眺める青春譜  
竹森桂子(香川県)
- 279 気がかりな一日やつと終わり告げ  
井上美恵子(愛媛県)
- 280 「ごめんね」のたった四文字で恋が逝  
き 阿部澄江(宮城県)
- 281 年をとり物事一つ考える  
松田義登(福岡県)
- 282 夏だ夏暑さたるさもなんのその  
大橋絵代(千葉県)
- 283 誕生日日淋しい気持なつて行く  
近藤はつみ(福岡県)

- 284 足まわり電動自転車はマイ・ベンツ  
奥那於子(大阪府)
- 285 初恋のままで八十路を睦ましく  
田澤宏(新潟県)
- 286 優しい目いつか童女にされてゆく  
石神紅雀(鹿児島県)
- 287 過疎の道広くなる頃人が減り  
山崎一嘉(愛媛県)
- 288 パソコンが買い手選べずため息を  
中林恵子(大阪府)
- 289 国債や人気は株のポリテックス  
野中よしみ(神奈川県)
- 290 クラス会遠く離れて忘れられ  
山崎寿美子(富山県)
- 291 四季狂いウグイス鳴いて梅雨入りし  
三浦博(岩手県)
- 292 悔しいがまあまああと丸められ  
高松秋良(群馬県)
- 293 父の日を否定しながら心まち  
伊藤敬子(宮城県)
- 294 親切にされて感激救急車  
増島淳隆(東京都)
- 295 八十の雄飛へ世界から拍手  
安田翔光(香川県)
- 296 病む母へ障子細めに陽を溜める  
大岩歌子(岡山県)
- 297 アベノミクスからアベノリスクへかい  
原崇雄(埼玉県)
- 298 三振をしても照れない齢となる  
野田明夢(新潟県)
- 299 好男子、希典、五十六、平八郎  
北村富士雄(新潟県)
- 300 死に水の旨さは書けぬ伝言板  
鏡たか子(山形県)

※前号13頁 2段目 道之弾師様は、正しくは道元弾師様でした。お詫びし訂正いたします。

## 6月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返事をお寄せ頂きありがとうございました。その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

《大賞》  
1 政権がどう変わろうとかわりなし棄  
民のようないまの福島

黒澤正行(福島県)



黒澤正行様

・怒りと絶望が伝わってきます。政治家はともかく、多くの人々がフクシマを応援しています。橋本世紀男(東京都)・政治の不信をストレートに表現しています。私もこういう歌を詠みたいです。篠原三郎(静岡県)・棄民がいい。濱崎祥子(鹿児島県)・東日本の未だ回復しない痛みが身にしみます。高橋邦子(高知県)・政府は復興を真剣に考えているのであろうか。あまりにも遅すぎる。濱田イサオ(福岡県)・森林、原野、河川の除染は何時終わるか不明。山菜、魚介類の内部被曝等の対策急務。民ありて国ありではないかな。昔井文男(新潟県)・福島の方ならではの歌。「棄民」のことが切ない。勢川直美(大阪府)他

【自句自解】  
「避難者を死語にはすまい再稼働」

未だに十五万人余の原発被災者が帰宅のめどのないまま避難生活をしており、与党幹部が原発事故の死亡者は無いので再稼働は当然のような発言。震災の関連死者一三三三三の内福島県人が最も多いのは原発事故が重なったからといわれている。逃げる際放置された牛は骨だけ残り、放たれた牛は野生化している。先祖代々の美田は荒れ放題の福島を無視、インドに対し原発のセーラスをする総理である。

《短歌》

31 われ独りホームのベッドに臥す夜々  
は先に逝きにし夫を恋ほしむ

萬濃その子(神奈川県)

・素直に気持ちが表示されている、と思う。木暮珣子(群馬県)・私も夫を二年前に亡くしたばかりなので同感しました。内田久江(群馬県)・想いが伝わって来ます。すなおにさびしさを歌っている。清水眞金(東京都)他

《川柳》

64 カルテよりパソコン見てるお医者さん

原田英一(千葉県)

・こう云う医者が多くなった。守屋高雄(岩手県)・医者についていつも思うていました。同感です。井原毬子(東京都)・私も病院へ行くたびに感じている事です。菊地可寿子(新潟県)・通院中の内科の先生はまさにこの通りでカルテどころかこち(患者)の目さえ見ないで生返事。困ったものです。鈴木岑夫(千葉県)・昔のお医者さんは聴診器で胸の音をじつときいて触れて頭から足元まで異常がないかみていたがパソコンの画像の答えにたよっているのをみかける。三浦博(岩手県)・どの病院もパソコン中心診察で顔も見ないで一分という時もある。

る。伊藤敬子(宮城県)・人と体を見てよ先生 原崇雄(埼玉県)・全く同感です。磯山陽吉(東京都)他

《俳句》

167 「若いね」と言はれて脱げぬ冬帽子

田中美智子(埼玉県)

・私も同じ思いをしました。竹内ハヤ子(埼玉県)・ふき出しそう。おもしろい句です。佐瀬千恵(神奈川県)・たまにはこんな句があるとほっとします。

中野豊彦(東京都)・はげている頭を見せたくない気持ちがよくでている。大塚正路(福島県)・実感！今ではお食事の時でも脱がなくて良い御洒落なものもありますよ。高崎登喜子(東京都)・自作の「ささやかな髪かくしたし夏帽子」 葎木匡子(滋賀県)・まったく同感。富樫和子(山形県)・帽子もファッションの一つ。「若い」と云われて悪い気はない。橋本まこと(栃木県)他

《他にも》

2 千の風吹きて散りゆく斎場の櫻は手  
向けぞ召されし人の

清水英雄(東京都)

44 ずいぶんとあなたの知らない歳月を  
重ねて今年の花が散ります

山内寿子(京都府)

56 名をつけて胸から歩く一年生

北村純一(神奈川県)

57 今日だけは善人となる祝い席

潮田春雄(千葉県)

96 三月やほぐされてゆく肩の凝り

松嶋光秋(東京都)

247 震災を一時忘る花筵

小野正光(宮城県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

前回のアンケート

Q. 涼を得る飲み物、  
食べ物は何？

紙幅の関係上、すべてのお  
答えを掲載できませんこと  
をお詫び申し上げます。

☆心太

・冷たく冷したところてんを酢  
じょうゆとからしで。喉から涼しさ  
が広がります。 小林七重(新潟県)  
・子供の頃、越後一の宮・弥彦で食べた  
味が忘れられない。  
若月理依子(新潟県)

・炎暑の緑陰で喫する心太はイケマス  
ぞ。 長野光康(神奈川県)

・柳生路の峠の茶屋で食べた心太の味。  
西口東治(大阪府)

・知多地方は冷えた心太にゴマをかけ  
て食べます。 中村和弘(愛知県)他

☆西瓜

・涼を呼ぶのはやっぱり西瓜でしょう。  
でも高くてなかなか口に入りません。  
石崎ひろ美(神奈川県)

・孫たちと食べるのが特によい。  
松尾正一(岩手県)

・昭和二十年八月十五日終戦の詔書を  
ラジオで聞いた脇の井戸に西瓜が冷  
してあった故郷の農家を思い出します。

石尾曠師朗(東京都)

・今も故郷の湧水で冷やした「西瓜」が  
忘れることができない。  
福岡悟(東京都)

・「西瓜のシャーベット」西瓜の種をとり  
果肉を適当に切り砂糖と共にビニ  
ール袋に入れ手で揉み紙コップに入れ別  
けて冷凍庫で冷やします。  
中山日出子(大阪府)

・義母の作るスイカは甘くて美味しかつ  
た。夏が苦手だったが今でもスイカ  
を冷して食べます。  
濱崎祥子(鹿児島県)他

☆ビール・お酒

・昔は大ジョッキで飲む生ビール。禁酒  
したので今ではノンアルコールのキリン  
フリー缶。 大橋恒次(新潟県)  
・ビール、農作業の後の。  
湯浅芳郎(岡山県)

・何と云ってもビールでしょう。老人の  
たわごと？ 林克(福島県)

・やはりキーンと冷やしたジョッキにこ  
れまた冷えたビールが注がれ、それ  
を一気に飲む。これ以外考えられま  
せん!! 有島和子(東京都)

・生ビールをグイッと行きたい所ですが  
2012年にこの欄で生ビール断ち  
を宣言して以来、それは守られてい  
ます。なので、それ以外の全てのアル  
コールで涼を得ています。どんだけ酒  
のみなんだか。宣言が守られている  
ことに乾杯! 稲垣恵子(埼玉県)



・焼酎のオンザロック  
油谷郷史(兵庫県)

・春夏秋冬 焼酎のお湯わり一杯。夕  
食時にやっています。先にお湯を入れ  
るのがコツ。 田野倉訓郎(東京都)

・大ジョッキ一杯のビールと夫は申して  
おります。私は冷やした甘酒。  
今井勝子(新潟県)

・ウイスキーハイボール  
堀井酔人(茨城県)他

☆枝豆

・枝豆がある時必ず自分で作った果実  
酒を氷で薄めて飲みます。  
菊地可寿子(新潟県)

・ビールのつまみに枝豆ですね。  
大江秋月(兵庫県)他

☆素麺

・何と言ってもそうめんです「揖保の  
糸」 須田洋子(埼玉県)

・流しそうめん 須澤重雄(長野県)

・昼食の素麺、のどごしの涼しいこと。  
ガラスの器の水が涼しい音もくれる。  
山本直子(大阪府)

・冷しソーメン。ガラスの鉢にもみじの  
葉を浮べて 森川千英子(千葉県)

・流水で冷した薬味たっぷりのソーめん  
切り硝子の器に入れて涼味満点です。  
大阿久雅子(東京都)

・天ぷら付ソーメン 辻升人(東京都)他

☆ひやひや

・ひやむぎ(「そうめん」でなく)  
千代田栄次(東京都)

・水・冷麦 喉越しの清涼感は絶品!!  
石井美智子(埼玉県)他

☆冷汁

・冷し汁(刻んだナスやキュウリとタデ  
を冷たい井戸水で造った味噌汁を飯  
にかけ食した) 菅井文男(新潟県)

・冷汁という栃木県ではめん類(そうめ  
ん・ひやむぎ)の汁にゴマをすって味噌  
仕立てで、しそや生姜を入れて食べる。  
故郷を離れても夏の食べ物です。  
早乙女文子(埼玉県)他

☆飲み物

・プルーンの濃縮エキスをうすめて冷し  
て飲む 木村舳(山形県)

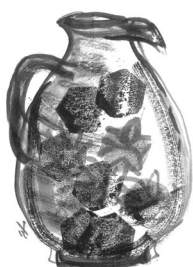
・自家製紫蘇ジュース  
奥田音野(香川県)

・昔ながらの「三つ矢サイダー」スカット  
して暑さを忘れる。  
紺谷睡花(東京都)

・カルピス 幼少の頃より夏一番の飲  
み物、昭和の味、初恋の味がする。  
高松秋良(群馬県)

・ブルーベリー黒酢も適量にうすめ、冷  
たくして飲む。 栗原黎(群馬県)

・地元産の柴又ラムネ。懐かしいビン  
を使っています。 増島淳隆(東京都)



# A Q U E S T I O N N A I R E



・一年中コーラです。

会田とし子(神奈川県)

・自家製杏ジュース 白戸麻奈(東京都)  
・ラムネ(あの玉の音か)  
小島岳青(新潟県)他

## ☆お茶

①抹茶の水うかべ一服。②熱々のほうじ茶と梅干。南喜美子(千葉県)  
・熱い緑茶 大場きよし(宮城県)  
・少し多めの玉露を氷水で注ぐ冷茶

清水勝子(神奈川県)

・夏中万能茶を冷やして飲んでいきます。

大窪美代子(大阪府)

・イチヨウの葉、ビワの葉、どくだみ麦茶を自分でブレンドして暑さをのりきります。自分で集めて保存しておきます。

黒岩正子(埼玉県)

## ☆梅ジュース・梅酒

・梅ジュース 青梅をあぐぬきして煮てそれをジュースに 涼やかで美味「青空の味」 橋本良子(埼玉県)  
・我家の梅の味で作った梅ジュース。氷をカラカラさせて飲んでいきます。

長谷川ただし(東京都)

・梅酒 西野博(三重県)

・自家製の梅酒の水割りアイス

藤井碩子(山口県)他

## ☆水

・地下五十メートルより汲み上げる井戸水(地下水) 黒澤正行(福島県)

・冷たくした生水です。

山崎寿美子(富山県)

・子供の頃はラムネとサイダー。今は「水」です。水が一番!

松田重信(埼玉県)

## ☆アイスキャンデー

・昭和二十年頃自転車でチリンチリンとならし売りにきていた棒アイスキャンデー。いろんな色がありました。

佐瀬千恵(神奈川県)

・子供の頃、自転車で売りに来た暑い夏の日。忘れられません。今はそういうアイスキャンデーはありませんが。

津田吾燈人(高知県)

・まざり気のない甘さと冷たさの水菓

鈴木みえ(長野県)他

☆アイスクリーム

・アイスマナカ、車の走行中ついコンビニで買ったアイスマナカを止められない。

## ☆かき氷

・子どもの頃は棒つきアイスかカキ氷しかありませんでした。イチゴ、メロン、色鮮やかで頭にツーンと痛みがくるのが懐しい。

布目雅之(東京都)

・子供のころ祭の夜店のかき氷が楽しみであった。

田野井一夫(栃木県)

・「かき氷」水泳場の砂浜の売店ですっ裸になって「氷」の赤い旗。びわ湖畔

の楽しみ

久保和友(滋賀県)

・「かき氷」昔からのけずり器でガラス

の器でイチゴ水をかけて。のどにしみていく冷たさがたまらない。

阿部フミ

(神奈川県)他



## ☆冷奴

・お気に入りの豆腐にみょうが生姜を添えて

中林恵子(大阪府)

・冷奴(醤油、薬味なしストリート)冷たい生ビールひとくち(たくさん飲みません)

大内泰子(東京都)

・暑い日は冷やつこに限りません。

鏡たか子(山形県)他

☆冷やし中華

・この季節冷し中華をよく食べます。

川嶋法子(東京都)

・わが家では野菜をたっぷり盛りつけボリュームも涼しさも満点です。

高崎登喜子(東京都)

・冷しラーメン(酢を一杯使って)

村岡盛英(群馬県)他

☆夏野菜・夏果物

・家庭菜園でとれたトマト、キュウリ、又梅ジュース(自家製)

神作洗江(埼玉県)

・物の無かった時代、井戸水につかった畑のトマトのおいしさ。かぶりついて

ホツとしたのが懐かしい。

奥那於子(大阪府)

・清水に冷して丸かじりする南郷トマト、美味で涼しい。

井上静夫(栃木県)

・夏野菜のぬか漬 大曾根育代(埼玉県)

それは茄子、西瓜でしょう

竹本惇子(山口県)

・冷たい胡瓜に味噌をつけ丸かじりする事

野村牟人(東京都)

・「冷し瓜」「冷し酒」(残念ながら今はアルコールはドクターストップ中です)

大谷茂(埼玉県)

・トマト・パイナップルを冷蔵庫で冷して食べる。 杉村美保子(岩手県)

梨・千葉県は日本一の梨の産地

古川正栄(千葉県)

・冷えたメロン(県内産のおいしいメロンが多くなつた)。相馬竹浪(新潟県)他

☆そば

・そばはいつでもおいしいが、暑い時にしつかり冷えたそばはビールに勝るとも劣らない。

長峰正晴(千葉県)

・汁に氷を入れて、冷えた「そば」につきます。これは実にうまい、のひとこと。夏味です。

石原岳(群馬県)

☆うどん

・何と言っても氷が副えてあるもの。ブツカキ氷にのせた手打ちうどん等。

百花清(埼玉県)

・冷しうどん、野菜ジュース

藤田照代(岡山県)

☆コーヒー

・スタバでフラペチーノ、めったに行かれません。岡本恵(茨城県)

・夏でも温かいコーヒーなど。

白井みはと(東京都)

☆ゼリー

・ゼリー ポカリスエット

田中昶(鳥取県)

・のどごしのよいゼリー状のものを冷やして頂くのが一番です。

青木涼子(埼玉県)

☆サラダ

・レタスを皿に敷いて、トマト、アボガド、パプリカ、キュウリ等を盛りドレッシングで食べるサラダです。

山川幸子(東京都)他

## ☆酢の物

- ・ すぐくの酢のもの。
- ・ 浜辺に住んでいるので特にもすぐは涼をとる格好の一品。 邑橋節夫(兵庫県)
- ・ 庫県)
- ・ 胡瓜の酢の物 岩清水の一杯



緑川禎男(埼玉県)

## ☆鱧

- ・ 京都出身の私、鱧の落としと加茂茄子の海老そぼろあんかけ 南順子(大阪府)
- ・ 食物では鱧のあらいかな。 野木宗信(奈良県)

## ☆羊羹

- ・ 厚切りの羊羹と濃茶 矢野絹枝(東京都)
- ・ 70年くらい前のこと、小学校の帰りは、毎日のように同級生が買ってきてくれたのが水ようかん。 坂詰進(福島県)

## ☆スイーツ

- ・ 風鈴の下での水ようかん。 鈴木義雄(福島県)
- ・ 冷した葛切りです 原田麦吹(埼玉県)
- ・ 抹茶のわらび餅(くず餅)とこころてん(甘みつ) 十亀東美(大阪府)
- ・ 白玉。喉ごしのうまさ。 居原田連星(大阪府)

## ☆おすすりめレシピ

- ・ みょうがのやわらかな茎を千切りにしてミソ土正油+カツオブシまぶしてひやして生酒。これぞうましうまし！ 北野耕兵(千葉県)
- ・ 薄切りキュウリを塩もみし、塩を洗い流し、青シソを細く切る、ワカメは

サツと洗って一センチ位に切る、ゴマをふりかけ、これらをまぜたものに青シソドレッシングかポン酢をかけ食べてみてください。

杉原明子(静岡県)他

## ☆その他

- ・ 暑いときは熱いもの「鍋焼きうどん」を食べます。紅茶・コーヒーもホットです。 鈴木智子(千葉県)
- ・ 蓴菜、秋田の名産スイレソ科の多年生沼地に生える。ぬるめきが良い。 土谷敏雄(秋田県)
- ・ アイスプラント。早朝摘み立ての噛む感触は格別。有坂馨園(福島県)
- ・ 冷茶漬け、熱いお茶 星一子(神奈川県)

特に無し、鬼婆さんの手料理。 山東爺(北海道)

- ・ (小生の出身地は新潟市の沼垂です)夏になると子供の頃、福島湯で採れる菱の実を食する事がなつかしく思い出されます。上村元義(神奈川県)
- ・ 水まんじゅう 阿部澄江(宮城県)
- ・ ブルーベリーのヨーグルト。年々年をとるに従って視力がおとろえます。ブルーベリーの効果を信頼しつつ。 延原令岱(岡山県)

- ・ 昔、急行さど東京行きの車内で見なかつた冷凍みかん。 藤橋一葉(新潟県)



挿絵 須澤重雄

# 新潟ぶらり

## ★シネ・ウインド

通りに面したガラス張りの窓からは、天井まである書棚がみえる。書棚には映画に関する書籍をはじめ約二万冊が連なり、書店だと思いつく方もあるという。シネ・ウインドは映画館、それも市民が運営する映画館だ。

いまから二十八年前。新潟の中心街・古町にあった名画座の閉館をきっかけに、現シネ・ウインド代表の齋藤正行氏が、市民が運営する映画館を提唱。一人一万円の寄付を募り誕生したという変わったいきさつをもつ。スクリーンは、ひとつ。初めてドアをあけたとき、黒幕がかかっていた、ふつうの映画館との違いに面食らったことを覚えている。椅子も、シネマコンプレックスにあるようなものと違い、簡素なつくりだ。舞台挨拶に訪れた監督(八年前、映画「さよならみどりちゃん」の古厩智之監督だった)が、学校の文化祭を思い出しているというなことをコメントしていたし、なんというか、とても身近な感じ、もつといえれば作り手の息づかいが感じられる空間なのである。

久しぶりに、仕事終わりに観に行きた。映画がはじまる前。今後の上映予



〒950-0909 新潟市中央区八千代2-1-1  
TEL 025-243-5530

定の作品紹介を、スタッフがスクリーン脇に立つて行う。上映作品はスタッフが選定しているから、説明にも血が通っていて、興味が二倍にも三倍にもなる。映画をこんなに愛している人がすすめるのだから、いい作品にちがいない、観たい、という気持ちになる。明かりが徐々に暗くなり、プザーが鳴った。レンタルしてきた映画の再生ボタンを押すのではない。上映時間に間に合うように映画館に到着し、席をえらび、上映を待つ。自分が合せることであじわえる感覚だ。開館当初、一年持たないだろうと言われたという当映画館。想いが結集し、それが体現され続けているということ。そこにある、あり続けるために走り続ける人の存在。齋藤代表は、ある対談で「奇跡が二十八年間続いているのです」と語った。(菅真理子)

第30回目の今回は、河野静子さまよりバトンを託された南暁さま。  
本年6月22日に世界文化遺産に登録された日本の象徴である霊峰富士。  
標高3776mの頂上に、何度も登りたくなるというその魅力はいったいなんなのでしょう。

●お客様の『リレーエッセイ』

## 散歩しながら

南 暁

(埼玉県・比企郡)

富士山に二十三回登ったという人に出会った。日課としている夕方の散歩の途中である。なんと八十歳になったという。短パンにTシャツのトレーニング姿。二十四回目は家族に止められて断念したそうだ。

なぜそんなに登るのかは聞き漏らした。私も山は好きだが、なぜ山へ登るのかと聞かれても、明確な、納得させる答えは出せないだろう。信仰の対象となり、山を崇め敬うのはどの国でも同じだ。高いところへ登り、天辺から下界を見るのは多くの人の憧れるところだろう。

富士登山は、シーズンともなれば、あの蟻の行列だ。日本一高い山、霊峰、そこから御来光に手を合わせる。そして、世界文化遺産に登録された山だからますます登る人は増えるだろう。しかし、私はまだ登ることがない。眺めるだけでよかろうと思っている。独立峰の富士山は、近くからでも遠くからでも、四辺どこから見ても美しい。あまりに整い過ぎていると思う。美し過ぎる。

山に登るのは楽しい。私も北アルプス、南アルプス中心によく登った。条件が厳しければ厳しいほど、登り終えた時、喜びは倍加する。こんなところに来るんじゃないやなかった、登るんじゃないやなかった、恐怖に立ちすくんでしまうことがある。天候の急変、強風、あり得ることだったが、想定を遥かに超えている。岩場に張りついたまま、完全に危険ゾーンに入った気がした。先を行く相棒も同じ状態だ。どうする。進むしかない。一歩目が踏み出せなかった。後にその時の精神状態を相棒にぶつけてみた。「いや、ヤバかったすね。自分らの後ろのパーティーは引き返したくらいですから」と。

山小屋の食事は、何といっても一番の楽しみだ。質素ではあるが、十分にうまい。ビールを飲みながらその日を振り返り、次の日の行動を語り合う。人との出会いがまた楽しかった。百名山の踏破を目指し近づきつつある人、写真家、珍しいことに国会議員に出会ったこともある。

雲海の上に浮かぶ月、大きく見える星のまたたき、それらは昼間の苦闘を忘れさせてくれるものだった。元気な傘寿の人に出会ったことで、だいぶ時は経たしたが、この日は私の山行のワンシーンを思い出させてくれた。八十歳でヒマラヤに登頂した三浦雄一郎さんは、七十そこそこでトシなどと言っていいものか、これからが人生だと勇気づけてくれたが、このごろの私は、もっぱら近くの森の散歩と低山歩きを楽しむ日々となっている。



## 滋味しみじみ◎◎◎

森俊彦様 (神奈川県・横浜市)

4月25日、施設の中ばかりでなく、新保の自然探訪ということで30人程のグループで近くの四季公園に出かけた。残菜ながら雨となり、中食は行きつけのレストランへ。4人1組のテーブル。何を注文するか皆興味津々。長老Wさんは稲荷ずしと海苔の鉄火巻に山菜そばで。2人がそれと同じもの。隣のOさんはそばの代わりにうどん。私はトンカツ定食であった。キャベツの千切りの大盛りを手頃に切ったトンカツの上にのせ、アサリの味噌汁、炊き立てのご飯に香の物、香りのいいお茶である。キャベツの上にソースをかけ、箸を取り出して割る。お茶、汁の香りが入り交って何ともいえない良い感じ。「ああ、うまい」キャベツ、トンカツがソースの味と入り交じる。心を静めてゆっくり味わうつもりが手の方が忙しくらい。「おいしそうですネ」と当日のお世話係のOさん、パチリパチリと箸の動きにカメラを向ける。

### いそいそと楽しい米寿の箸使い

の句と共に、食事風景が展示された。「食いしん坊みたいで…」と言ったが、写真は皆に廻された。「キャベツと味噌汁、ご飯はお代わりできますよ」と、そそのかす人もいたが照れてしまってやめたが惜しいことをしたと残念である。周囲の人達がこんなにしてくれたのも、食事がおいしかったためであろうと嬉しく思っている。

●食に関するミニエッセイ「滋味しみじみ」の原稿を募集しています。400～500字の原稿をP16下記の宛先に封書かメールにてお送りください。勝手ながら採用の可否については、弊社に一任させていただきます。おいしいお話、大歓迎です!!

## 第23回芭蕉祭加賀山中温泉全国俳句大会

おくの細道「芭蕉曾良別れの地」石川県加賀市の山中温泉にて、「第23回芭蕉祭加賀山中温泉全国俳句大会」が開催されます。俳聖芭蕉の足跡を偲び、俳句愛好家の交流の輪を広げることを目的とした本大会も今年で23回目。全国および海外から俳句を募集するとともに(締切終了)、吟行句会が行われます。

【吟行句会・表彰式】 場所/山中温泉文化会館

日時/9月8日(日) 受付8時30分 吟行8時45分～

記念講演/14時30分～「知らない事を知る楽しみ」濱島仁子氏  
吟行投句/囁目 2句1組 参加費/1,500円(投句料・昼食代・作品集含む)  
申込み/加賀市教育委員会文化課 俳句大会係へ郵送またはお電話で  
〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町二41番地 0761-72-7888  
申込締切/8月30日(金)

## 「ご縁ブック2013」「2014年手帖」のご注文用紙を同封しました!

「2014年手帖」は今回より様変わり。昨年同様作品募集はありませんが、中身は縦書きでありながら、表紙は昨年までの「手ぬぐい」の和から「革」に似た洋の装丁へ。「どこで買ったの?」と引き合いに出されること請け合いです。また、作品の投稿は「ご縁ブック2013」にてお待ちしております。

ご注文の締切はいずれも9月30日(月)。今すぐにぜひ!

ポストカード好評発売中! 毎回ご好評いただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各季節)。今回は夏バージョンの「貝殻」を同封いたしました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手**を同封のうえ封書にてお申し込みください。

## 情報をご提供ください!

6月より新しくなった当社ホームページ、または「喜怒哀楽」紙面で、俳句・短歌・川柳の大会告知、作品募集等の情報を掲載いたします! 郵送、ファックス、メールのいずれかでお待ちしています(P16下の宛先参照)。

## スタッフの一言

Q. 涼を得る飲み物、食べ物? ※お客様から頂いた手作りのお手玉で遊んでいます。



ビール以外に思い出せない。「新潟限定ビール風味爽快ニシテ」は美味♪素麺に生姜、茗荷、葱、紫蘇、鰹節をたんまりと入れて+茄子漬、ビールがあれば私には母乳並みの完全栄養食!



昔は、麦茶だけでいい～、とか、豆腐だけでいい～、とか言っていたけれども、今は、ちゃんとごはん食べます。「涼」はやっぱりアイスかな～。



いま我が家で流行っているのが、ただの炭酸水。最初は味のしない炭酸なんて…と思っていたが、よく冷やして、氷を入れて飲む。これがなかなか美味しい。身体にもいいらしいです。



近年、ただただ、氷を口に含み、しまにはガリコリと食べています。日中はもちろん、寝る前までガリコリします。時々氷の角で口の中を切ってしまうこともあります。身体には良くないのはわかっているのですが…。



茄子と胡瓜を細く切り、生姜、茗荷、青紫蘇、を細く細く切り、めんつゆ(創味のめんつゆ)をかけただけの簡単お漬物。夏は必ず冷蔵庫に入っています。



花見にビール! 紅葉にビール! 鍋にビール! いろんな飲み方があるけれど、夏には海でビール!!! これに勝るものはありません! 沖繩のオリオンビールは海ぶどうとともに! 見た目も涼しそう～



夏になり、暑くなると大きな甘い西瓜が食べたくなる。食事のあとでも、帰宅したときでも冷蔵庫に入っているのは嬉しい。あとは漬け物かな?



「涼」といいますか…とにかく甘いものが好きなので、好物の水ようかんややっぱりアイス。新潟では「桃太郎」「金太郎」がご当地アイス(氷菓)。6人家族なので冷蔵庫冷える暇なし。節電しましょう?



やっぱりビール! あとゴーヤチャンプル! 夏といえばこの組み合わせで夏を乗り切ります! 外で夕涼みしながらの～♡最高ですね! 家の庭のグリーンカーテンゴーヤ! 早く実らないかな～



もうすぐ2歳です♪ アイスと枝豆が大好きなの♡



詠み人の『リレーエッセイ』

## どんな話をしよう

北山あさひ

Kちゃんという友人がいる。Kちゃんとは会社で出会った。Kちゃんは私より一歳年上で、声が大きく、手も大きい。短気で面倒くさがり屋だが仕事は真面目。後輩には厳しいが、それと同じくらい優しくして誠実で、ラーメンを食べるときは必ず小ライスも頼む、とてもナイスな同僚である(ちなみに未婚)。

私たちの職場はテレビ局の生放送に関する部署で、事件や事故、悪天候のときなどはみんな走り回ることになる。私は走る役を何気なく後輩にやらせてさぼったりしていたが、Kちゃんはいつも全力で走った。元ソフトボール部なのである。元キャッチャーなのである。数々の修羅場があったが、Kちゃんは決して「絶望」にホームベースを踏ませることはなかった。…まあつまり、私たちは力を合わせて頑張っていた。

出会って十年。Kちゃんと私は数え切れないほどたくさんのお話を積み重ねてきた。「今日は死ぬほど疲れた」とか「今度ふわふわのパンケーキを食べに行こう」とか、「空から3億円降ってこないかな」とか。「3億円手にしたら百万円あげるね」は年に3回くらい言っている。仕事の真面目な話もたくさんしたし、人間関係の悩みも相談し合った。労働組合を立ち上げ、社長に「納得できません」を連呼した。仕事での意見が対立して一触即発になったとき、後輩たちがぞろぞろ寄ってきて何だか喧嘩しづらいつい雰囲気になり、「うん…ま、まあ、がんばろう」でまとめたときもあった。私が色々落ち込んだときは「後片付けが終わるまで待つてるから、一緒に帰ろう」と言ってくれた。黙ってモスバーガーであたたかいココアを飲んだ。二年前の冬、「もう辞めようかな」とどちらともなく言った。一年前の春、「限界かも」と言ったのは私だった。Kちゃんは「先に辞めていいよ」と言った。冬、「辞めようと思う」と私が言っ

「純粋に読者としてこの人のエッセイを読みたい」と思う歌人は誰がいるかと考えたとき、北山さんが思い浮かんだ。それくらい面白い人」とは前回までの執筆者、山田航さま談。実に楽しみですね。

Kちゃんは「わかった」と一言だけ言った。そして今年の春、新しいチーフとなったKちゃんに「夏で辞めることにしました」と告げた。Kちゃんは「ああ、ついにかー。ついに辞めるのかー。さみしいよー」と大きな声で壁にしがみついた。

この世に生まれて三十年という月日が経った。遠くまで来てしまった、と思う。どこから遠いかと言えは、それは「私が愛おしいと思っている私」からだ。その「私」は高校のセーラー服を着て、化粧つきの顔のない顔にさらし、真っ直ぐにふるさとの海を見ている。そういう少女がこころの中にずっといる。今の私から何をそぎ落としても、逆に私の何を鍛えてももう戻ることのできない、ただ眩しいだけの生き物へ、まあ、年齢のせいだと思っけど、想いは行ってしまう。恥ずかしいことだ。でも今こうして振り返ってみると、Kちゃんと働いてきたこの十年間、私はその「少女」にとても近かったように思う。働いて、失敗して、悩んで、ちよつとずつ前に進んで、腹をたてて、走って、疲れて、美味しいものをいっぱい食べて、くだらない話をして、たくさん笑った。すべての日々に愛おしい「私たち」がいる。

六月の風の強い日に「じゃあ、またね」と言っ私とKちゃんは別れた。私たちはこれからもずっと遊び続けるだろう。私は新しい職場の愚痴をこぼし、Kちゃんは新しく入った後輩のヘンテコなエピソードを教えてくれる。十年後、お互いの子供の可愛さを自慢し合い、二十年後、ついに三億円を手に入れたと報告をする…?

最高の友人と、これからどんな話をしよう。

少女らの声もマイクをふと洩れて放送塔は朝風の  
なか  
中城ふみ子

2013. 8. vol.69 (2013年8月10日発行/隔月発行)  
●発行・印刷/株式会社 ミューズ・コーポレーション  
〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-17  
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550  
0120-819-395  
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com  
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミューズ・コーポレーション

## 編集後記

約3週間のドイツと日本の学生の交換プログラムの一環でドイツ人男子高校生2人を5日間受け入れた。朝、グーテンモルゲン、おはよう、グッドモーニングと3か国語を駆使して(ついでこれだけで!)起こす。疲れ果てたが、いなくなった途端その不在に一抹の寂しさを感じる。この交換の目的はそれぞれの国の若者が多くの友達を作る、究極には「No more war」。そう、友だちのいる国とは戦争しないという観点に立つからだ。たった5日間だが、彼らの国を今まで以上に意識する。彼らの家族、地域をリアルに感じるから。今回の新潟の大雨でも心配するご連絡をいただいた。交流の大切さと思う。(木戸敦子)